2026 年度 フィリアホール 区民企画事業

オトノワ プロジェクト

0歳から OK 親子で楽しむ

オトノワコンサート

絵と物語による音楽プログラム

2026年11月29日(日)

各回先着 40 名

公演スケジュール

＊午前の部（各約 20 分）
① 開場 10:45 ／開演 11:00
② 開場 11:45 ／開演 12:00

＊午後の部（約 45 分）
③ 開場 15:00 ／開演 15:15

チケット

＊午前の部
0歳～大人
前売 ¥500 ／当日 ¥700
＊午後の部
0歳～大人
¥1,000

ご予約はこちら

会場 フィリアホール　リハーサル室［横浜市青葉区民文化センター］※駐車場の割引サービスはございません。
神奈川県横浜市青葉区青葉台 2-1-1 青葉台東急スクエア South-1 本館 5 階

0～未就学児のお子さまも大歓迎♪

作品紹介／コンサートの見どころ

未就学児～大人まで楽しめる♪ 知る・学ぶ・楽しむ！

音楽をたっぷり楽しみたい

①ポポロの冒険



小さなあらいぐまの「ポポロ」が、はじめておつかいの冒険へと旅立つ。ほんの少しの勇気と優しさで、世界を広げ成長していく感動の物語。

②光のこどもたち



この地球には私たちがまだしらない生き物がたくさん住んでいます。様々な動物たちに出会って、一緒に考えてみよう！

③くるみ割り人形



ヨーロッパのクリスマスの雰囲気と、チャイコフスキーの美しい音楽にのせて、一緒に夢のような物語の世界へ旅立とう！


香川真澄（Piano）


井上絵美（Piano）


廣瀬この香（Narration）


高橋玲香（Illustration）

主催：オトノワプロジェクト
後援：レガーレぴあの教室、Rock paper scissors

O T O N O W A C O N C E R T

Ticket

「音楽・アート・物語」にのせて
心がふわっとあたたかくなるコンサートです。

オトノワプロジェクトとは？

2003 年、桐朋学園大学在学中に香川真澄と井上絵美が結成したピアノデュオを原点とする「オトノワプロジエクト」。2012 年に参加した東日本大震災チャリティー公演をきっかけに「イマジネーション（想像）」をテーマに、【音楽・物語・アート】を融合させた音楽パフォーマンス、オリジナルの作品制作が始まり、オトノワプロジェクトは今年で 14 年目を迎えました。
すべて生演奏によるピアノと朗読、そして手描きによるオリジナルの絵をアーティストに委託し、クラシック音楽の魅力と、音楽から広がる「想像する楽しさ」を、子どもから大人まで楽しめるステージとして届けています。

どんな活動をしているの？

文化庁東日本大震災復興支援事業として、岩手県の子どもたちへ音楽を届ける活動にも継続的に取り組んできました。アウトリーチを通して地域の方々と交流し、音楽が人と人の心をつなぐ力を実感した経験は、現在の活動の大切な原点となっています。
現在は横浜市青葉区を中心に、レガーレピアノデュオとしてのコンサート活動や、幼稚園・地域での音楽活動にも継続して取り組んでいます。

3つの魅力

①MUSIC
コンサートはすべて生演奏です。
その瞬間にしか生まれない、Live ならではの音楽をお届けします。

②ART
作品はすべて手描きによるオリジナルです。
音楽と物語からのインスピレーションで、アーティストが丁寧に描いています。

③STORY
物語はすべてオリジナルです。
生演奏と絵に合わせて、語りが臨場感あふれる世界をお届けします。

出演者紹介



香川真澄（Piano）

岩手県出身。横浜市青葉区在住。桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業後、ハンガリー国立リスト音楽院へ留学。幼少期から自立心旺盛。大自然をを舞台にわんぱくに育つ。オトノワプロジェクト主宰。レガーレぴあの教室（あざみ野教室）主宰。



井上絵美（Piano）

東京都出身。桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業。パリ・エコールノルマル演奏課程を経て、パリ国立地方音楽院（CNR）を満場一致の一等賞を得て卒業。やんちゃで好奇心旺盛、怪我の絶えない幼少期を過ごす。レガーレぴあの教室（福生教室）主宰。



廣瀬この香（Narration）

滋賀県彦根市出身。
13 歳より芝居を学び始める。
幼少期は探検家さながら、琵琶湖のほとりに秘密基地を作って遊んでいた。2020 年よりオトノワプロジェクトのメンバー。透き通る声と豊かな表現力で、独自の世界観を紡ぎ、老若男女を魅了する。



髙橋玲香（Illustration）

岩手県出身。京都芸術大学マンガコース卒業。
2003 年、集英社発行別冊マーガレットの MANGA グランプリ「ザ☆デビュー」にて準グランプリを受賞。オトノワプロジェクト作画担当。音楽と物語に寄り添い、一枚一枚の絵に息を吹き込みながら、作品の世界を豊かに彩っている。